

(1) オンライン学習環境について

1. [Slack](#)上の本チャレンジ用ワークスペースに、事務局から提供されるアカウントを使用して参加します。
2. ワークスペース上にアップロードされた教材をダウンロードし、確認しながらプログラム開発環境※にて、プログラミングを行います。
 ※開発環境については「(2)プログラム開発環境について」を参照
3. 学習中に質問があった場合には、Slack上で直接メンターに質問をし、メンターから回答をもらいます。



sar-test ▾
 ● 参加者
 🔍 全スレッド
 チャンネル
 # general
 # random
 ダイレクトメッセージ
 ♥ Slackbot
 ● 参加者 (自分)
 ○ **メンター**
 + メンバーを招待
 App
 + Google Drive をインスト...

メンター
 ☆ | ○ 離席中 | メンター
 🔍 検索 @ ☆ :

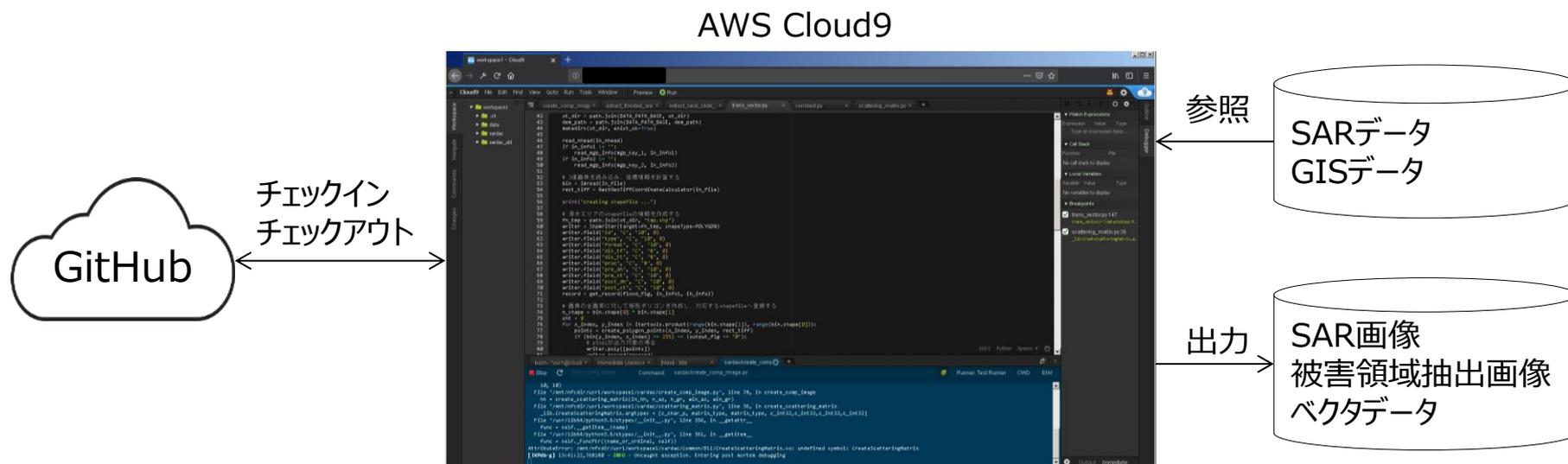
オンライン学習の教材をアップしました。
 PDF ▾
 オンライン学習.pdf
 337 kB PDF
 リモートセンシング
 知って! SAR 学べる!
 分析チャレンジ!
 オンライン学習

@メンター 使用するプログラムをGitHubからチェックアウトし直しても良いですか？
 @参加者 はい、大丈夫です。ただしGiuHubと同じディレクトリ構成だと作成したプログラムが上書きされてしまいますので、ご注意ください。

+ メンター へのメッセージ @ 😊 送信

(2)プログラム開発環境について

1. クラウドベースの統合開発環境(IDE)[AWS Cloud9](#)に、事務局から提供されるアカウントを使用してログインします。
2. [GitHub](#)上のSARデータ分析プログラム※をAWS Cloud9環境にチェックイン・チェックアウトし、プログラミングを行います。
※プログラミング言語：Python3 ライセンス：GPLv2
3. コーディングしたプログラムをAWS Cloud9上で実行します。使用するSARデータやGISデータ、および出力するデータは参加者毎のストレージをご用意しますので、そちらを参照します。

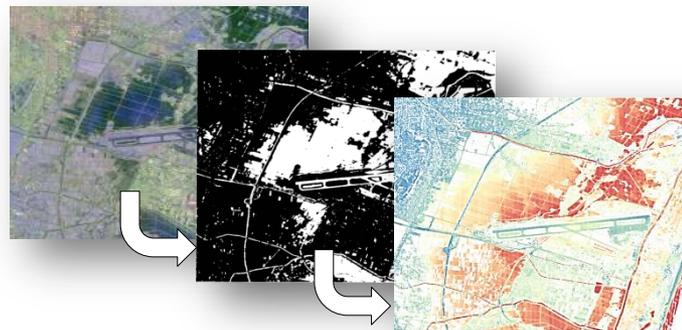


4. 作成した画像やラスタデータはAWS Cloud9から参加者のPCにダウンロードし、地図可視化ツール[QGIS](#)で閲覧します。

(3) 地図データ作成環境について

1. AWS Cloud9上でSARデータ分析プログラムを実行し※、以下の通りデータを作成します。

- ① SARデータから画像を生成
単偏波画像、四成分画像 等
- ② SAR画像から被害領域の抽出画像を生成
- ③ 被害領域抽出画像からベクタデータを生成



※プログラムの実行方法は「(2)プログラム開発環境について」を参照

2. AWS Cloud9上でアップロードツールを実行し、作成したデータをサーバに登録します。

3. Web可視化アプリを実行し、サーバに登録したデータを閲覧します。

